

《学校教育目標》		《重点目標（中長期的目標）》	
<p>幅広い教養と高い専門性を追求し、社会に開かれた学びをとおして、平和な未来に貢献できる心豊かな人間を育成する</p>		<p><b>【ひとつづくり(豊かな情操を育む人間形成)】</b>                      1 生命の尊厳を自覚し、真理と正義を愛する知識・教養・創造性豊かな人間の育成に努力する。</p> <p><b>【ものづくり(付加価値の創造)】</b>                      2 独創(Originality)・想像(Imagination)・工夫(Device)・努力(Effort)の精神を尊重し、工業・商業両分野における“ものづくりの拠点校”としての役割を果たす。</p> <p><b>【学校づくり(充実した学びの場の構築)】</b>                      3 安心・安全な学校をめざすとともに、環境教育や総合技術高校としての専門教育の推進等による特色ある教育システムを構築する。</p>	
領域	項目	具体的な教育活動	成果と課題
こころ	1 自他を大切にできる心の育成	<ul style="list-style-type: none"> <li>様々な教育活動を通して自己理解を深める取り組みを行い、自己肯定感や他人を思いやる気持ちを育てる。</li> <li>メディアリテラシー、人権平和教育等に関する教育活動を推進する。</li> <li>生徒会行事の企画立案及び運営を通して生徒の自主的な活動を促す。また、ボランティア活動などの社会参加を勧め、他者を思いやる気持ちを育てる。</li> <li>クラブ活動に積極的に取り組む中での様々な体験を通して豊かな人間性を育む。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>全校人権平和学習では映画「野球部員、演劇の舞台に立つ」を鑑賞し、個性の違いを認め合って協力し合う素晴らしさを学ぶことができた。</li> <li>生徒会活動を通して自分達の日々の活動に自信を持って取り組み、より多くの成功体験や充実感を積み重ねることができた。そのためにもこれまで以上に主体的に取り組んでいけるよう意識づけを行いたい。</li> <li>文化祭では急な日程変更等に柔軟に対応するとともに、来場者及び全校生徒が充実感を感じられる新たな企画を取り入れるなどして成功につなげることができた。</li> <li>また、全国各地で発生した災害に思いを致し全校に呼びかけて実施した募金活動や「やまびこマーチ」へのボランティアスタッフ貢献等の意欲的な取り組みを年間を通じて行うことができた。</li> <li>クラブ活動においては、日々の努力の成果を発揮すべく、各種大会で最善を尽くし、その活動を通じて肉体的にも精神的にも成長した姿が見られた。</li> </ul>
	2 基本的生活習慣の確立	<ul style="list-style-type: none"> <li>日常生活において、職員全体による働きかけから挨拶・服装・頭髪などに対する生徒自身の意識を向上させるとともに、5S（整理・整頓・清掃・清潔・躰）の充実を図る。</li> <li>挨拶運動、マナー改善の活動、定期的な頭髪服装指導等の実施を通じて、生徒のルール遵守、モラル向上の意識を高め、「生徒集団の中での自身の立ち位置」を振り返りながら生活できるよう促す。</li> <li>生徒会役員、委員会、クラブによる挨拶運動を促し、全生徒が自然に挨拶ができるように方向付ける。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>新制服導入の効果により身だしなみについては概ね落ち着いた状況を維持しており、授業中も落ち着いた雰囲気の中で学習に取り組める生活環境が整ってきているが、提出課題の不正行為が問題事案として目立った。</li> <li>スマートフォン等に関するルール・指導が学年によって異なる状況であるため、全校統一した内容となるよう生徒主体で考えさせるような仕向けを行っていくことが今後の課題である。</li> <li>節目ごとに生徒会役員による挨拶運動を実施した。リアクションも含めて多くの生徒が自然に挨拶できる様子が見られた。職員も自覚を持って挨拶する意識を持ちたい。</li> </ul>
	3 得意分野の伸長(卓越性の伸張)	<ul style="list-style-type: none"> <li>個々の意欲や特性ならびに能力を活かした活動ができるような環境や指導体制を整えるとともに、活動を広く発信することにより活動意欲を喚起する。</li> <li>キャリアデザインに繋がる資格・検定・コンテストの情報提供を行うとともに、生徒の実態に合わせた講習会や補習授業を実施する。</li> <li>終業式等の全校集会時に難易度の高い資格取得や検定合格を表彰し、資格取得の意識づけを行う。</li> <li>授業・クラブ活動・行事等をリンクさせ、自ら課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、行動し、よりよく問題を解決する能力を身につけさせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>各教科の授業においてグループワークやディベート等を導入し、共通の課題に対し生徒自らが考えたり、お互いに教えあう姿勢を身につけさせる授業実践が進んできている。</li> <li>各専門科における科目「課題研究」では生徒が意欲を持って研究に取り組めるように、様々な工夫や意識啓発ができるような機会を設けるよう心がけており、それが徐々に成果につながってきている。</li> <li>建築学科では建築大工技能士や2級建築施工管理技術者検定などの取得のために外部指導者の講習会を実施し、教育環境を向上させることができた。</li> <li>機械系学科の生徒を対象に、元F-1チーフメカニックとして先端企業で活躍してきた技術者の実経験に基づいた講演を企画し、意欲喚起をすることができた。</li> <li>本校の学習活動を校外へ情報発信するという面ではまだ工夫や改善の余地はあるが、コンピュータ制御部などの活動を筆頭に、その端緒は持ってきている。</li> </ul>
ものづくり	1 基礎学力の定着(高校教育の共通性確保)	<ul style="list-style-type: none"> <li>社会の課題に関心を持たせる学習をとおして、学ぶ意欲の向上を図る。</li> <li>本校生徒に必要なとされる学習内容等について検討する。また、専門科と普通教科の情報交換と現状把握を行う。</li> <li>公正・協力・責任などの態度を育て、生涯を通じて継続的な運動ができる資質や能力を育てる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>地元企業や地域の方との協働による学習により、地域社会に対する関心を高めることができた。</li> <li>次年度からの「基礎学力の確実な習得に向けたPDCA」実施に向けて、進路指導係とキャリア学習指導係で計画を立案中である。</li> <li>体育の授業では選択制授業を取り入れることにより、様々な種目に触れ、どんなグループの中でもお互いが協力できる資質を身につけることができた。また、高校卒業後の運動の継続のための資質能力を高めることができた。</li> </ul>
	2 専門力の伸張	<ul style="list-style-type: none"> <li>学科の教育指導方針に沿い、職業人としての心の育成、資格・検定取得のための指導、地域人教育での社会人基礎力の向上に取り組む。</li> <li>実験実習や課題研究をとおして、文献調査・思考力・分析力など専門分野への探究心を育む。</li> <li>3年目を迎える「学びと働きを連携させた信州創生のための新たな人材育成モデル事業」の取り組みを活用し、市町村、地元企業、連合会など地域との連携をいっそう深め、課題研究などの教育活動や進路指導に活かす。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「プログラミング」(電子機械)、「シーケンス」(電気電子)、「最新測量機器実習」(社会基盤)「瓦葺き講習会」(建築学)「フィールドスタディ」(商業)等各学科の特徴を活かし、地元企業をはじめ、地域社会と積極的につながる「探究的な学び」が実践された。</li> <li>「学びと働きを連携させた信州創生のための新たな人材育成モデル事業」の取り組みが3年目を迎え、昨年に続いて企業展示説明会、企業講演会等を実施した。地域の産業界、支援団体、学校との連携が更に深まるとともに、今年度3年生の地元就職率の向上等においてこの事業の成果が確認された。</li> <li>各専門科と学年が連携して資格取得のための補習を計画することにより、多くの生徒が様々な資格を取得することができた。</li> <li>インターンシップおよびキャリア学習の日の事前、事後指導を実施し、これからの社会に適應できる職業人を育成できるよう指導を行った。</li> </ul>
	3 総合技術教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>他の総合技術高校との連携を深め情報を共有することにより、総合技術教育の深化、発展を図る。</li> <li>3年目となった教科(総合技術)では、計画運営の中心となる専門科主任会を設けることで学科横断教科としての諸課題を改善し、地元企業や地域の要素を取り入れるなど内容を更に検討して学習効果の向上を図る。</li> <li>全校課題研究発表会の充実を図り、外部への告知方法やPRについて工夫する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>県内の総合技術高校を対象に年2回の総合技術研究会を開催した。学校の特色を生かし、各科を連携させた授業の取り組みの実践報告や課題など共有した。</li> <li>課題研究発表会を各学科及び全校で実施し、多くの来校者を迎えて充実した発表と展示が実現できた。今年度は特に地元企業や地域との連携による研究や、年度を超えて継続し深化してきた研究発表の充実について高く評価された。</li> <li>総合技術「商品開発実践」では、機材も毎年拡充して新しい商品を開発し続けており、商品のレベルも向上している。</li> <li>総合技術「建築基礎」では、学科間連携により建築学科教員が社会基盤工学科3年生を対象に住宅の基本的な計画、設計、まとめ、発表までを指導し、プレゼンテーション能力を養い深めることができた。</li> </ul>
	4 進路指導の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>3年間を見通した指導体制の下、面談等を計画的に行い、生徒・保護者の個々の進路希望を把握し、様々な進路行事を通じて生徒の進路に対する意識を高める。</li> <li>進学希望者、就職希望者に対する補習、面接指導等を計画的に実施し、学校全体で生徒の進路実現に向けた取組を行う。</li> <li>ポートフォリオを活用し、新しい入試制度への対応準備を進める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>各学年で計画的に進路講話・ガイダンスを行い、進路情報の提供が行われ、将来の進路に対する意識を高めることができた。また学力向上に向けて国数英理の補習を、就職対策ではSPIの補習を長期休業や平日に計画的に行った。</li> <li>2学年全員に2日間のインターンシップを実施し、働く意味や職場の厳しさを学ぶ機会となった。また、各学年でキャリア学習の日を設け、企業や進学先の見学等を通じて、進路意識を高めた。</li> <li>生徒の実態把握に努め、個々の希望に沿った進路指導を行うことができた。</li> <li>専門高校の進路実現のためには、基礎学力とともに、専門力、さらには課題解決力、主体性、協働性等の社会人としての基礎力の向上が必要である。主体的な課題解決の学習を積極的に推進しこれらの力の強化を図りたい。</li> <li>新しい入試制度に対応すべくポートフォリオを活用するため、学期毎の振り返りをLHRの中で時間をかけて行い、学習活動・探究活動・学校行事・部活動ボランティア活動、表彰、資格・検定等の活動記録を振り返らせ、データとして蓄積させることに努めた。</li> <li>1,2年生を対象に3年生による進路講話を企画し、希望進路実現に向けての一助とすることができた。</li> </ul>
学校づくり	1 安心・安全な学校づくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>危機管理意識を高め、事案発生の場合に迅速で適切な対応を組織的に行うためのシステムづくりをする。また、「集団の中の自分、自分を取り巻く集団」という意識を持たせて、人との関わり合いを考えさせる。</li> <li>職員間の情報共有を充実させ、不登校や障がいを抱えた生徒の日常生活を見守り、状況に応じたチームとしての支援体制を整える。またSC(スクールカウンセラー)やSSW(スクールソーシャルワーカー)をはじめとした専門機関と連携を図り、校内外での支援体制を強化する。</li> <li>定期的にSST(ソーシャルスキルトレーニング)を実施し、生徒の自己理解を深め、コミュニケーション能力や社会的自立心の育成に努める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>発生した事案や生徒が抱える問題等に対して、学校・家庭・SC・SSW・医療機関と連携を行いながら迅速に対応した。</li> <li>SSTの定期的な実施のために、実施形態について再検討する必要がある。</li> <li>問題事案の事前防止に関しては、注意喚起や訴えを何らかの形で恒常的に行っていくよう心掛けていく必要がある。そのことにより集団への帰属意識や自覚を持たせることになる。</li> </ul>
	2 環境美化の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>美化委員会及び職員間の連携を強化し、日常の清掃活動やごみの分別収集について立案・実施・指導し、校内の清掃美化の徹底を図る。</li> <li>ISO委員会と連携し、地域の清掃活動、清掃美化の推進の維持・発展を図る。</li> <li>PTAによる環境整美作業を通して安全で快適な学習環境を保護者の協力を得て実現する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>全校の清掃活動への取り組み意識は向上してきており、校内環境も改善されている。</li> <li>ゴミの減量化や分別については未だ1人1人の意識を高めていく必要性を強く感じる。</li> <li>これまで同様「ISO清掃活動」と称して、学校周辺を中心に地域の清掃活動に従事した。</li> </ul>
	3 組織的な学校運営	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校運営上の諸課題に対して職員間で情報を共有し、係・学科・学年の枠を超えた協力体制づくりを進める。</li> <li>学校全体を見据え、教科横断的な教育課程の討議・編成を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>課題研究発表会や企業展示説明会、各種講演会など、職員間で連携し円滑に運営できる体制が充実している。</li> <li>発足から6年が経過し職員の世代交代が進む中で、総合技術高校としての新たな取り組みの方向性に沿いながら校内の条件整備や諸規定の見直しの必要がある。</li> <li>4年後の新学習指導要領の実施に向けて、総合技術高校としての教育課程のあり方を根本的に見直す時期にきている。選択科目においても、変更後をイメージしながら検討をすすめている。</li> </ul>